

天声人語

3年前に亡くなった俳優高倉健さんの声を懐かしく聴いた。「日本が戦争に負けたらいいい」「えー降参したとな?」。

敗戦の日の友人との会話を故郷福岡の言葉で再現する。戦争証

言集『私の八月十五日』に収められた当人の声である▼漫画家、作家、学者、政治家ら各界の約150人が敗戦の記憶を手記や絵にして寄せた。その第5集が今月出版された。寄稿者の約半数が、自ら朗読して録音する作業にも協力している▼「戦争という行為は人間のとる行為の中で一番の愚行だ」。漫画『ゴルゴ13』で知られる劇画家さいとう・たかをさんの声は低い。先月亡くなった医師、日野原重明さんは意外と早口。勤務先が戦時中は「大東亜中央病院」と改名され、敗戦後はいきなり連合国軍に接収されたと苦難の日々を語る▼「戦争を知る世代がいよいよ高齢化し、お元気うちに手記と肉声を集めようと急いでいます」と発行元今人舎いましんしゃの稲葉茂勝さん(63)。児童書の編集出版が主力で、合間に社員が証言を集めて回る▼これまで証言集と音声機器をセットにして希望する学校や図書館などに寄贈してきた。証言集は市販しているが、音声機器は非売品とした。無償で預かった音源で利益を追うわけにはいかないと考えたからだ。毎号が赤字である▼今年も終戦の日を迎えた。玉音放送を聴いた世代は年ごとに減り、戦禍を知らぬ世代が社会の前面に立つ。戦争という巨大な愚行を語る文と絵と声は、だからこそ公共財であると痛感する。